

## 児童発達支援事業「ふうあり」を開設しました。

理事長 西田 良枝

浦安市内では、平成15年にスタートした障がい児・者等一時ケアセンターや障がい者自立支援法施行により始まった日中一時支援事業をはじめ、障がいを持つ子どもを預かる事業所が複数あります。この数年は「子どもの居場所がない」とか「預かってくれるところがない」という声もあり耳にしなくなりました。

社会が子どもを育てていくことや、障がいを持つ子どもたちもいろいろな人とかわりながら育っていくことや、保護者の方たちも子どもを理解しているのが親だけでないと思える状況は、とても安心で必要なことだと思います。

このように、いろいろなサービスを使えることになった今、保護者はサービスを提供する支援者にどのように子どものニーズを伝えているのでしょうか？

障がい福祉サービスをする人たちはプロなのだから、「伝えなくてもわかっているのが当然」と思っている方もいるかもしれません…。私は親として子どもの一番の理解者だから、支援者にもこんなことをわかってほしい、こんなサービスを提供してほしいと伝えたいと思っている方もいるかもしれません。

「とも」では、子育ての中心を担い、子どもにとって一番の安心な存在である保護者の方たちが、障がいはあるけれど子育てって楽しいな、子どもと遊んでいるとたくさんのお見込みがあるな、こんなふうに遊びながら子どもはたくさんのお見込みをしてくれたり身に着けたりして行くんだな…というような実感をもってもらいたい。専門的な支援の方法も一緒に身に着けたり、知ってもらったりと、保護

者の方が、子どもの自立までの道のりをサポートする一番身近な存在として歩んで行ける、基盤をつくるような支援ができたらと考え「ふうあり」をスタートすることにしました。



「ふうあり」では、まだ、「障がいて何?」「障がい児って言われても…。」「今何をすればいいの?」「この先どうしたらいいの?」等々…困っているという保護者の方や、「発達に必要な専門的な支援を受けたい。」「自分でも学びたい。」という保護者の方や、「障がいじゃないと思うけど、発達が気になる」保護者の方たちと一緒に子どもたちひとり一人に合わせた必要な支援をしていきたいと思っています。

子育ては誰にとっても不安で心細いものです。障がいを持つ子どもたちの支援はもちろんですが、保護者の方たちが一人で抱え込まずに、子育てできるように、貢献できる「ふうあり」でありたいと思っています。

## 児童発達支援事業所

# HUALI ふあり

“ふあり”は お子さん、お母さん、お父さん  
それぞれを支え、ひとりひとりのお子さんの  
生きる力を伸ばします

★**子育て支援** 子育てには不安はつきもの…子どもと向き合う 関わり方を一緒に考えます  
「親としてどう関わったらいいの?」「うちの子他の子とちょっと違うかも」「他のお母さんたちと話せず孤立してしまう」etc…  
悩みを抱えたお母さん、お父さんたちもサポートします

★**オーダーメイドの療育・発達支援** みんな可能性に満ち溢れた輝く存在。未来に向かってともに!  
専門家による指導を含めた各種プログラムの中から、ひとりひとりのお子さんにあった支援を行います

### プログラム

✿ **専門家による個別プログラム** (各 週1~2回)  
心理・摂食指導・認知発達・言語聴覚士・  
理学療法士・作業療法士・保健師・保育士  
■一人ひとりにあわせた課題に取り組むことで、  
お子さんの発達を促します。

✿ **集団プログラム**  
音遊び・感覚遊び・お買い物・作って遊ぼう  
など…  
■様々な楽しいプログラムがお子さんの自信、社会  
性を育み、心とからだの成長につながります。

✿ **ペアレントトレーニング**  
「親は自分の子どもの  
最良の支援者になることができる」  
親が療育の方法を学ぶプログラム  
■集団プログラムの中でスタッフと一緒にお子さん  
への効果的な関わり方を考え、実践します。

✿ **保護者のニーズにあわせたセッション** (週末開催)  
精神科医、保育士、心理士など専門スタッフ  
と共に悩みを語りあったり、制度や障がい特  
性について学んだり、先輩当事者のお話を聞  
く、お母さん・お父さん対象のグループセッ  
ションです。

### 利用するには…

- ① まずはお問い合わせ
- ② 初回相談
- ③ 利用契約
- ④ サービス利用開始

お気軽に  
お問い合わせください。  
見学・体験も  
随時受け付けています

### 利用対象者《定員 10 名》

- 浦安市内在住の方
- 発達に不安がある、障がいのある
- 未就学児とその保護者
- ★ 親子通園を基本とします
- ★ 児童発達支援の支給決定を受けることが  
必要です

### 開設日・時間

- 月曜日～土曜日（祝祭日除く）9～13時
- 土曜日（月一回）保護者セッション開催
- ★ その他楽しいイベントもあります
- ★ 送迎についてはお問い合わせください

### いっしょに話し合ってみませんか!?

#### ～ペアレントトレーニングのごあんない～

障がいの特徴、子育てや将来に役立つ社会資源や制度につ  
いて勉強したり、先輩当事者の方のお話を聞いたり、お子さんへ  
の関わり方を実践的に学んでみませんか?

お父さんやお母さんが抱える悩みを、精神科医の先生と一緒に、  
話しやすい・身近な距離で語りあう、ペアレントトレーニングを、  
今年の **8月**から**月1回開催**（来年3月までの全8回）します。  
詳しくは、下記ふありの連絡先へお問い合わせください。

**対 象**：発達の遅れや障がいのある未就学のお子さんの保護者10組  
（ふありのご利用となります）

**講 師**：嘱託医 高瀬 真 先生（精神科医）

**場 所**：浦安市総合福祉センター 2F多目的室 浦安市東野 1-7-1

※全8回参加可能な方を原則とします。

Tel 047 (304) 8808

Fax 047 (304) 8821

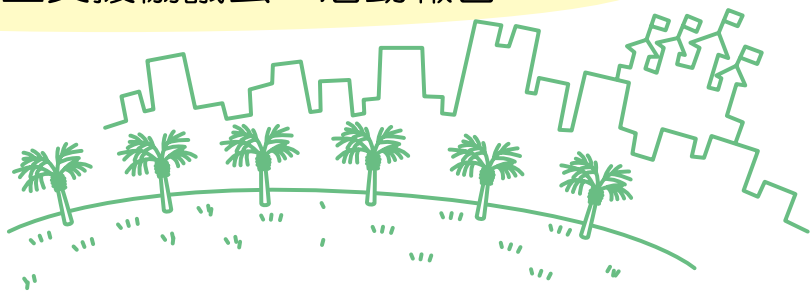
E-mail huali@jcom.home.ne.jp

## 浦安市地域自立支援協議会 活動報告

24 年度になり、浦安市地域自立支援協議会は、4月から稼働しています。今回は、6月末時点での協議会の活動状況をお知らせします。

4月から6月の2ヶ月間で、啓発広報プロジェクト、事業者支援・制度プロジェクト、幹事会が動き出しました。

啓発広報プロジェクトでは、23 年度に引き続き、障がいの有無に関わらず、ともに暮らす街づくりの啓発ツールの一つとして、サポートブック作成に取り組んでいます。作業部会が4月、5月と2回開催。作業部会では、今後の作成スケジュールの確認、ハンドブックの表紙やイラスト、ページ数、作成部数ほか、説明文章や文言など、ハンドブックの具体的な内容について検討しました。その作業部会の検討内容を受けて、第1回のプロジェクト会が6月に開催されました。検討ポイントは、「障がい」と言っても、幅広く多岐にわたることから、ハンドブックの中で説明する「障がい」について検討。また、障がいのある人は、特別な人たちではなく、私たちと変わらぬ普通の生活を送っており、ハンディがある人たちにも、できることはあつて、社会の一員としてお互いに支え合う関係があつてのサポートブックという位置づけが良いのではないかという意見もありました。



事業者支援・制度プロジェクトは計3回開催。本プロジェクトでは、23 年度に引き続き、24 年の法改正に伴う相談支援体制について検討。中でも、障がい者福祉計画にも明記されている25 年度から設置の基幹相談支援センターの機能と役割について検討しました。

委員それぞれが、浦安市の相談体制についての意見を出し、基幹相談支援センター、24 年度から始まった計画相談（サービス利用計画案の作成）を担う県や市の指定を受けた相談支援事業者、障がい福祉課、ソーシャルサポートセンター、社会福祉協議会、自立支援協議会、地域にある多様な社会資源が担う役割と機能を整理しました。第3回の事業者支援・制度プロジェクトでは、その全体像の案がまとまり、7月開催予定の全体会に提案することになりました。

幹事会は、今年度に入って2回開催。特別支援教育、就労支援プロジェクトは今後、随時、実施予定です。

【浦安市障がい児・者総合相談センター 矢富】

### 千葉県遊技業協同組合様・千葉県ヤクルト販売株式会社様・浦安遊技場組合様より、「ヤクルト福祉車両」を寄贈していただきました。

平成 24 年 6 月 26 日「浦安市ソーシャルサポートセンター」にて、「ヤクルト福祉車両寄贈式」が執り行われ、送迎車両として、「スズキ アルトバン VP 4人乗り」を寄贈していただきました。

障がいをもつ人達への支援、余暇活動、就労、そしてこれらの活動の広報など、幅広くこの福祉車両を活用させていただき、地域に根ざしたサービスをこれからも実践し、当法人の理念の実現を目指したいと考えております。

### 後援会「ともと歩む会」のお知らせ

こんにちは。皆様お元気でしょうか。梅雨の合間の晴天の暑さに、夏の到来を感じます。

ともと歩む会の活動には日頃よりご協力をいただき、ありがとうございます。

ともでは、新しく児童発達支援事業所「ふあり」を立ち上げました。

発達に不安のある未就学児童を対象に、「親子通園」を行い、本人の生きる力を伸ばすことと、保護者へのペアレントトレーニングが大きな柱に

なっています。

関心のある方は、どうぞお問い合わせください。休養と栄養をしっかり補って、暑い夏を乗り越えて行きましょう。

◆年会費は 3,000 円です。

◆会員と賛助会員を選んで頂き、必ず振込取扱表の通信欄に明記ください。

口座番号・郵便振込先：00120-0-536557 / 名義：中田光昭

◆会員…時間があるときにお手伝いいただける方

◆賛助会員…お手伝い等出来ないが寄付等の応援をしていただける方

#### 「ともと歩む会」申し込み方法



## 第3回



### ●●● 沈黙の鉄板焼き編 ●●●

前回お伝えしたように、思っていたよりもハードなフライトでしたが、税関を通る頃には私の体調もほぼ回復。空港の外に出てカラリと乾いたハワイの空気に触れると、すっかり元気を取り戻していました。そんな私とは対照的にじっと黙って緊張気味なHさん。どうしたのだろうと心配していると、ぼつりと一言。「英語ばっかり…」。

彼女はこれが初めての外国旅行。そういえば税関のところから様子がおかしい。日本で見たことの無い心細そうな表情です。それに引き替え海外経験もある百海さんは落ち着いたようす。Tさんはわたしと一緒にワクワクを押さえきれずに、辺りをきょろきょろ見回しています。

空港からホテルまでは日本からインターネットで予約していた介護タクシーで移動です。このサービスを営んでいるのは、以前ハワイのホテルで働いていた日本人。車椅子に乗っている方にもハワイを思う存分楽しんでもらいたいと始められたそうです。

アメリカ製のバンを改造した福祉車両は日本の車両と違い、

電動リフトが後ろのハッチゲートではなく側面スライドドアに着いています。日本で多く見られる車両では、私はいつも最後尾に座ることになるのですが、このタイプだと真ん中の列に車いすがくるのでフロントガラスから景色がよく見え、とても気持ちいいのです。

このタクシーはもちろん日本語でOK。なのに、Hさんはここでもダンマリ…。そんなに緊張しているのかなと思っていたら、「江里さんは機内で十分に食事も出来ていないし疲れているはず…、いちど休まないと。それに薬をのむ時間も過ぎている。ホテルには、あとのどのくらいで着くのだろう？」と私の心配をしていたそうです。何というか、さすがです、Hさん。ありがとう。

ホテルに到着すると、これも日本で予約していた在宅酸素サービスの人たちが酸素ボンベを携えて現れました。コーディネーターの方は日本人女性、酸素ボンベを取り扱う会社の方はハワイアン女性。ただ、日本では考えられないくらい『カジュアル』な格好です。ムームー姿の日本人女性はだっこひもで赤ん坊を胸に抱え、3歳くらいの女の子の手を引いています。「子連れ」で仕事場に来ることに驚きましたが、はじけるような笑顔を振りまきながらはしゃいで部屋中を動き回っている女の子を見ていると、こういうおおかさもハワイらしくて良いなと思いました。

2日目には、子どもの頃から大好きなフラダンサー、カノエ・ミラーさんのショーを見ました。だんだんと沈んでゆく夕日をバックに、風のように波のように踊る彼女。自然と一体になったパフォーマンスに、みんなも溶けていきそうな表情です。フラダンスって素敵だなあ…、とずっとあこがれていた私は今回の旅行でどうしてもフラを習いたくて、インターネットなどで色々と調べて来ていたのです。そんな中から



## staff column

今回のハワイ旅行中に、アラモアナセンターという大きなショッピングモールに出掛けました。日本での事前準備として、江里さんの介助で必ず必要となる「救護室の場所はどこか？」と言うことを、英語のメモを江里さんと作って持って行きました。このメモがあれば、発音が上手くできなかったとしてもやり取りができるだろうと考えました。

アラモアナセンターに到着すると、消防車やパトカーが複数止まっており、何が起こっているかはわからず、私たちは立ち往生してしまいました。長時間車椅子に座っている江里さんは、横になりたい様子でした。そのため、通常通り人が行き交うところもあったので、予定通り行ってみることにしました。そして、メモを頼りに、横になれる場所をお店の人に聞いてみました。お店の人同士が話をしており、何とか案内をしてもらえらることとなり

ましたが、どうなっているかの状況が把握できないままでした。ケアスタッフとしては利用者さんの安全を守るために、英語が話せない自分の恥ずかしさを捨て、言葉が上手く通じなくても、お店の人に話してみなくてはいけないだろうと、気持ちが変化していきました。思い切って、お店の人に聞いてみたところ、「ファイヤー」という言葉が聞き取れました。なんと、火事（ボヤ）が起きていたようです。そして、ショッピングセンター全域が危険な場所ではないこともわかりましたが、救護室となりそうな場所は残念ながら、火事で封鎖された場所にあったようです。結果はどうなるかわからなくても、「話してみない（やってみない）と何も始まらない」と、この旅行を通して改めて感じることができました。

パーソナルケアセンター 百海



選んだのは、ハワイアンセンターで開催されているフラ・レッスン。基本の動きを中心にした、初心者にも優しいコースです。翌日さっそく、HさんとTさんで参加したのですが、これが見るとやるとでは大違い。私の車いすはHさんがリズムに合わせて動かしてくれますが、私自身も音楽に合わせて身体を揺らします。ゆっくりとしたリズムなのですが、私は身体を少しひねるだけでも人より体力を使います。各国から来た50人くらいの旅行者達に混じって、なんとか一生懸命やっていたら、先生が私の名前を覚えてくれて「ERI, come here. In front of Me」と最前列の真ん中に誘ってきました。戸惑いましたが、私たちは先生の目の前で更にながらばって踊り続けることに。でも、途中からリズムに身体を任せることにもなれ、レッスンが終わる頃には、かえって日頃の疲れが取れたような心地よさでした。Tさんも持ち前の素直さで、のびのびと踊って『気分爽快!』の笑顔です。みんなでフラのもつ癒やし効果を体験できて大満足でした。

この日の夜は、私が家族旅行で行ったことのあるアメリカンスタイルの「鉄板焼き」に繰り出しました。料理だけではなく、シェフのパフォーマンスが特徴のレストラン。みんなを喜ば

せたくて、どうしても連れてきたかったのです。

ステーキにエビ、ロブスター等のシーフードが盛りだくさんの豪華メニューを大奮発です。目の前に広がる大きな鉄板の向こうには「カンカンカン・カッカカッ」と小気味よい音を響かせながらナイフを操り、調味料のボトルを中に舞わせるシェフ。魔法のように次々とご馳走を並べてくれます。

この時はHYさんが私のケアをしてくれたのですが、彼女も食事を取りながらパフォーマンスを楽しんでくれている様子。Tさんは一番期待していたロブスターが、シェフの魔法で天井まで届きそうな火柱を上げたときには眼をまん丸にして、子どものように喜んでくれました。そしてHさんはといえば…、ここでも静かです。黙々と大好物のお肉を口に運んでいます。シェフが「How long, stay?」とか聞いているのですが、ただ黙ってお肉を噛んでいます。ああ、ここでも英語アレルギーが出てしまったのですね。でも、後で聞いたら料理はどれもおいしくて、幸せだったそうです。みんなの喜ぶ顔が見られて、私の気持ちも満腹になった夕食会でした。

続きは次回。ハワイの海では思わぬハプニングが待ちました。

#### 江里さん Profile

22歳。寝かせておくと寝たきりになってしまう重度心身障がいがある。自分の身体に合わせて作成したリクライニングとチルト機能が付いた車いすを通常は使用しているが、飛行機や車を使っていく旅行などにはバケット式の車椅子を使用。吸引器、酸素飽和度モニタ、バイパップ（人工呼吸器）、吸入器、買ろうのグッズ（シリンジやカテーテル、流動食）など、どうしても持っていかなければならない機器は数多い。性格は活動的で好奇心旺盛。お茶目。日本の47都道府県めぐりを制覇し、その体験を近々ホームページで公開する予定。今回は47都道府県旅行の発展的活動として海外旅行に挑戦。

この旅行記は平成23年10月末～11月に行ったハワイ旅行を元にしてしています。障がいを持った人の体験や感じたことを連載でお伝えします。内容については本人や介助者等に丹念に聞き取りをして代筆しています。

## How to 移動編

**【注意書き】** 障がいや状態はひとり一人違いますのでこれはあくまでも江里さんの場合であり、今回のハワイ行でのことです。

- ①車いすを利用しているので、飛行機に乗るのは乗客の一番最初、降りるのは一番最後になります。ホノルル空港では飛行機の中で待っていると、預けてあった自分の車いすの本体部分を飛行機の入り口のところまで持ってきてくれます。そのあとは係りの人が一緒に入国審査、荷物の受け取り、税関、空港を出てタクシー乗り場まで付き添ってくれます。今回は、介護タクシーを利用しましたがそのタクシーに乗るところまでサポートしてくれました。
- ②ハワイは日本人がたくさん訪れるところなので、日本人向けのツアーや日本語OKのガイドさんも多いです。けれども、日本語OKでガイド役もできて車いすが乗れて同乗者がたくさんいて、おまけに大型スーツケースも乗る…車は多くはないかもしれませんが。今回利用した介護タクシーはインターネットで事前の質問なども親切に対応してくれ、予約も全部メールでできました。

- ③ワイキキ周辺にいれば歩いてぶらぶらしているので充分心地よく過ごせますが、少し遠いかな?とおもうアラモアナやちょっと風に吹かれながら景色を眺めて近場の観光したいな、というときに、トロリーを利用してみました。どのトロリーも車いす対応なのに、意外と車いすで乗る人が少ないのか、2回とも運転手さんはスロープの出し入れに苦戦。長い時間かかっていましたが、運転手さんは嫌な顔をすることは全くありませんでした。（アメリカでは“ADA法”があるからか…）



〈編集後記〉第3回を数える「バリアフリー旅行記 in Hawaii」は、ハワイでの数々のエピソードを紹介しています。当時の楽しい雰囲気が目に見えそうな名文です。【H】